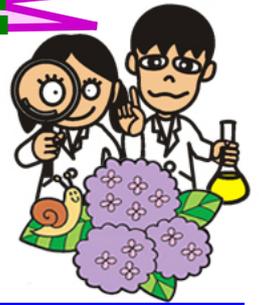


# 感染症に気をつけよう!

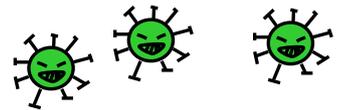


2015年【6月号】

## 横浜市内の感染症 流行状況

感染症	流行状況		説明
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎			幼稚園児から小学生に多く、かぜの様ですが合併症もみられ、抗生物質で治療します。早目に受診しましょう。【3月号】
夏に流行する感染症			腸管出血性大腸菌感染症 (O157 等) 【7月号】 咽頭結膜熱 (プール熱) 【チラシ】 手足口病 【8月号】 …… などは、例年、夏にピークになります。日ごろから、 <u>手洗いをしっかり</u> 行いましょう。

## 今、気をつけたい感染症 風しん



### ■ 風しんは、まだ発生しています!

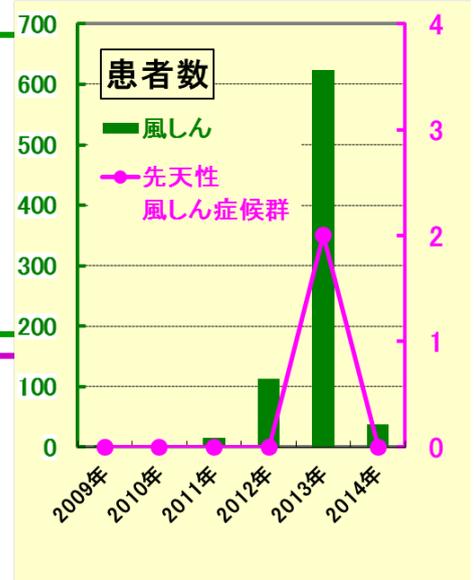
妊婦(特に妊娠初期)が風しんに感染すると、赤ちゃんに影響(白内障・心疾患・難聴など)が出る可能性があります。

市内でも風しんの発生に伴い、先天性風しん症候群の赤ちゃんが生まれています。

### ■ 先天性風しん症候群を予防しましょう!

風しんの流行をおさえ先天性風しん症候群を防ぐためには、予防接種が有効です。女性だけでなく、特に、**流行の中心**である **20~40 代の男性**がワクチンを受けることが重要です。

麻しん予防にも役立つ、**麻しん風しん混合(MR)ワクチン**をお勧めします。



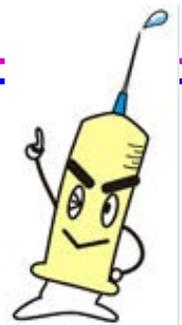
### ■ 風しんの予防接種と抗体検査が助成されています!

【対象】 19歳以上の横浜市民で

「妊娠を希望されている女性とパートナー」「妊婦のパートナー」

【期間】 平成 28 年 3 月 31 日まで

【問合せ先】 横浜市ワクチン相談窓口 671-4183



横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課  
【横浜市感染症情報センター】

